

✓ グリーンファイナンス拡大に向けた市場基盤整備支援事業
(脱炭素関連部門) (環境保全対策関連部門)

グリーンボンド・グリーンローン で資金調達しませんか？

グリーンボンド・グリーンローンによる資金調達の際に、
必要な費用※を補助します。

コスト削減にもなるし、
省エネ設備入れようかな...

株主にアピールしたい

営業車をEV自動車に
しようかと思っている

自社ビル建築を考えている
(グリーンビルディング)

廃棄物量を削減する施策
を考えている

気候変動に備えて
河川堤防整備したい



※補助金対象は、通常の資金調達に比べて追加的に発生する費用 (例) 外部レビュー費用

補助金利用要件概要

資金調達者	国内に拠点を有する法人・自治体等
通貨・市場	円建て/外貨建て、外債/内債、公募債/私募債の別は問わない
ガイドラインへの適合性	補助金申請において、グリーンボンドガイドライン、グリーンローンガイドラインに適合することを、発行までに外部レビュー機関が確認することが必要。ただし、外部レビュー等において準拠するものは、グリーンボンド原則、ASEAN Green Bond Standard、EU Green Bond Standard、グリーンボンドガイドライン等のいずれでもよい。
補助金の申請者	グリーンローン・グリーンボンドの外部レビュー事業やコンサルティングなどを行うものとして、グリーンファイナンスサポーターズの登録を受けた者
対象費用	グリーンローン・グリーンボンド、グリーン性を有するサステナビリティボンドとして資金調達するに当たり、通常の資金調達に比べ追加的に発生すると認められる費用(例)発行前後の外部レビュー費用、フレームワークのコンサルティングに要する費用

部門別・商品別詳細

補助金制度名称	二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 ＜グリーンファイナンス拡大に向けた市場基盤整備支援事業(脱炭素関連部門)＞ ※エネルギー対策特別会計	地域環境保全対策費補助金 ＜グリーンファイナンス拡大に向けた市場基盤整備支援事業(環境保全対策関連部門)＞ ※一般会計
	国内の脱炭素化分野 (再生可能エネルギー、省エネルギー、グリーンビルディング等)	国内の左記以外の環境分野 (気候変動適応、資源循環分野、生物多様性・自然資本分野等)
対象となる金融商品	①グリーンボンド、②グリーンローン、③サステナビリティボンド ④サステナビリティ・リンク・ボンド (SLB)、⑤サステナビリティ・リンク・ローン (SLL) <small>※「グリーンボンド・ローン」に準拠する商品に限定し、「サステナビリティ・リンク・ボンド」に準拠する商品に限定する。</small>	
補助率	外部レビュー費用(グリーンボンド、グリーンローン、サステナビリティボンド)・・・40% 外部レビュー費用(SLB・SLL)・・・70% コンサルティング費用・・・50%	
予算総額	2.2億円	2,250万円
一件当たりの補助上限金額	2,000万円 ※1つの資金調達支援計画単位	450万円 ※1つの資金調達支援計画単位
＜要件＞ グリーンボンド グリーンローン サステナビリティボンド	✓ 調達資金の100% (サステナビリティボンドの場合は50%以上) がグリーンプロジェクト※1に充当かつ ✓ 調達資金の金額又は件数の50%以上が国内の脱炭素化事業に充当	✓ 調達資金の100% (サステナビリティボンドの場合は50%以上) がグリーンプロジェクト※1に充当かつ ✓ 調達資金の金額又は件数の50%以上が国内の左記以外のグリーンプロジェクトに充当
	(グリーンボンド・サステナビリティボンドの場合) フレームワークを公表済みであること。補助金申請時に未公表の場合は、発行までに公表すること。	
＜要件＞ SLB・SLL	国内のエネルギー起源CO2の排出削減(国内の脱炭素化)に資するKPIが一つ以上含まれていること。	国内の脱炭素化以外の環境改善(気候変動適応、資源循環分野、生物多様性・自然資本分野等)に資するKPIが一つ以上含まれていること。
	KPIの選定、SPTの設定について、SLB及びSLLガイドラインとの適合の観点から、一定の要件を満たすこと。	

グリーンウォッシュにご注意!

グリーンウォッシュとは
...実際は環境改善効果が無く、又はそれが不正に水増しされていたり、調達資金が適正に環境事業に充当されていないもの

㊤グリーンウォッシュの恐れがある例

- ✓ 環境に優しいプロセスを使用して製造したと言っていたが、実際には製品を製造する際に**有毒な化学物質が使用**されていた
- ✓ 環境改善効果の算定に古いデータ等、**不適切なデータを使用**していた
- ✓ グリーンプロジェクト実施に際し、付随的に発生する環境へのネガティブな影響への対策をしていなかった、あるいはネガティブな影響が本来の環境改善効果を上回っていた
- ✓ CO2を削減して製品を製造したが、**製品のライフサイクル全体で評価するとCO2が増加**していた

補助金ご応募先：一般社団法人環境パートナーシップ会議

HP：https://epc.or.jp/foundation_dept メール：gf_jimukyoku@epc.or.jp

グリーンボンド・ローン一般について：グリーンファイナンスポータル

HP：<https://greenfinanceportal.env.go.jp/> メール：greenfinanceportal@iges.or.jp

グリーンボンド・グリーンローンのメリット

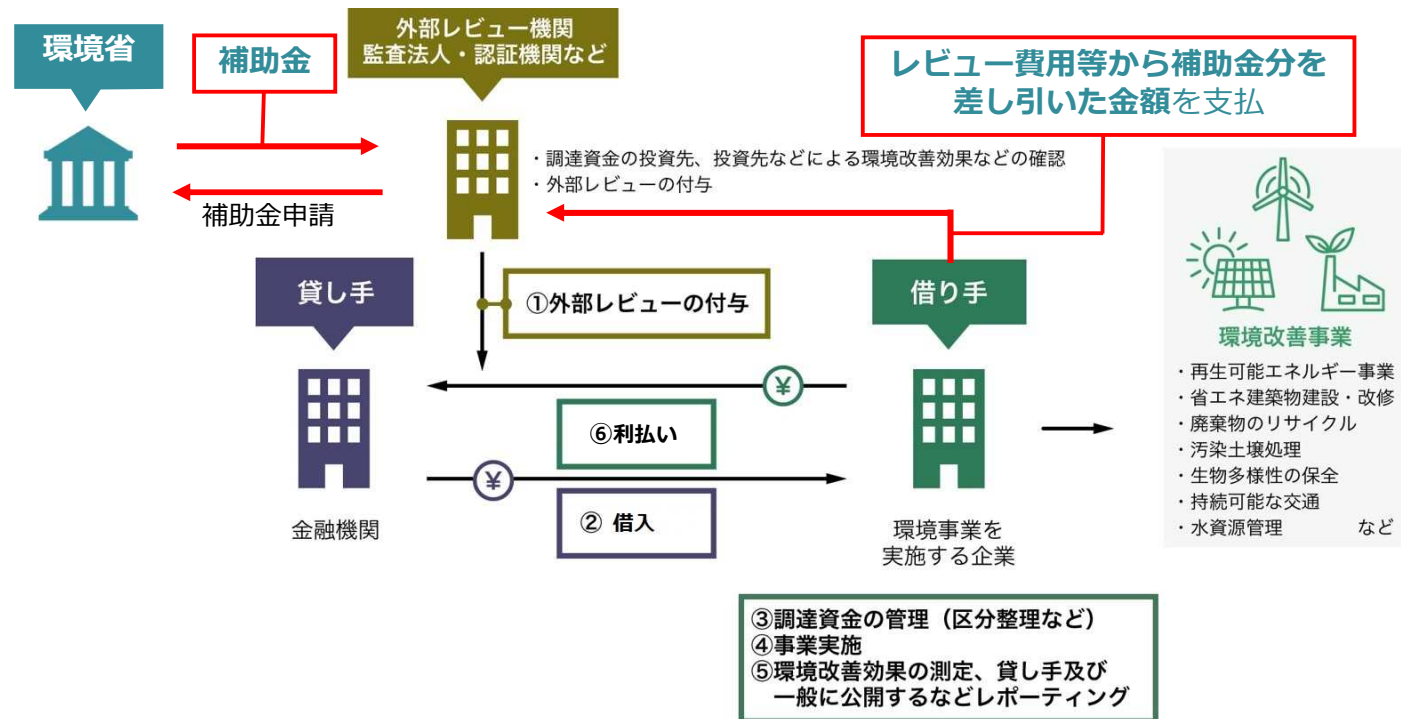
- 👍 新たな貸し手や投資家層の獲得&対話
- 👍 比較的好条件での資金調達の可能性
グリーンボンドにて、グリーンボンド（発行条件が同じである他の債券と比較して、価格が高く（利回りは低く）なる現象）が発生する事例もあります。
- 👍 グリーンプロジェクト推進アピール&社会的な支持の獲得
- 👍 サステナビリティ経営の高度化

グリーンローン・グリーンボンドって何？

🌿 **グリーンプロジェクト***（再生可能エネルギー事業、省エネ建築物の建設・改修、生物多様性の保全、資源循環に関する事業等）**を用途とした資金調達方法。**

*明確な環境改善効果がある事業であること。グリーンプロジェクトの判断の指針については、グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン、グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドラインの**付属書1**を参照。

（例）グリーンローンのスキームイメージ



外部レビュー等に関する**実質負担額が軽減**されます

グリーンプロジェクトの例

- ・EV購入・製造
- ・再生可能エネルギーの導入
- ・太陽光パネルにて使用される機器を製造
- ・省エネ性能の高いビル等の建築・改修
- ・工場等からの排水の高度な処理・再利用に資する設備を導入
- ・水産資源の保全や回復 例) 漁獲対象種保全のための事業 等
- ・都市の緑地保全
- ・気候変動に強い作物品種の開発
- ・事務所における気象災害対策や気候リスクの高いエリアからの移転・・・等

Q 通常の借入との違いは何ですか？

A 通常の借入との主な違いは以下3点です。
 ①資金用途がグリーンプロジェクトに限られる点
 ②外部レビューの付与が推奨される点
 ③レポーティングが必須とされる点

Q 外部レビューとはどのようなものですか？

A 外部レビューとは、対象の借入（債券）が国際原則等で求められる事項を満たすか等を、借入前後（発行前後）に評価するものです。環境改善効果等の客観的評価として、資金の出し手（貸し手である銀行や投資家）から求められることが考えられます。
 例) 資金用途であるグリーンプロジェクトの環境改善効果に関する評価等

Q レポーティングとはどのようなものですか？

A レポーティングとは、資金の出し手（貸し手である銀行や投資家等）へ、グリーンローン等に関する事業の進捗状況や環境改善効果の情報提供を行うものです。

Q 補助金を申請するにはどうしたら良いですか？

A 登録支援者（事前にグリーンファイナンスサポーターズの登録を受けた機関）が補助事業者である一般社団法人環境パートナーシップ会議（令和6年度）に申請を行います。詳しくは下記グリーンファイナンスポータルをご参照ください。

詳しくはこちら！

グリーンファイナンスポータル

ESG金融を取り巻く様々な政策情報を、広く発信しているサイト

<https://greenfinanceportal.env.go.jp/>



ガイドライン

グリーンボンド等
発行リスト

補助金
手続きフロー

補助金
交付規程

登録支援者一覧

※補助の対象は、事前にグリーンファイナンスサポーターズの登録を受けた機関による外部レビューやコンサルティングにかかる費用となります。グリーンファイナンスサポーターズとは…https://greenfinanceportal.env.go.jp/bond/regist_system/about.html

補助金利用要件概要

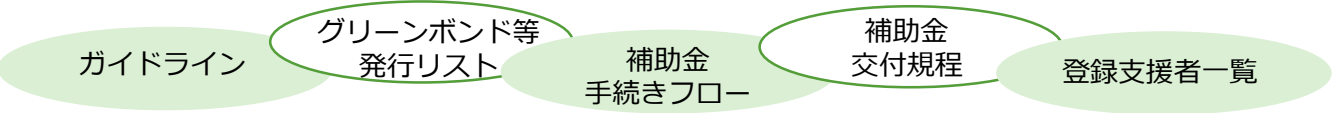
資金調達者	国内に拠点を有する法人・自治体等
通貨・市場	円建て/外貨建て、外債/内債、公募債/私募債の別は問わない
ガイドラインへの適合性	補助金申請において、サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン、サステナビリティ・リンク・ローンガイドラインに適合することを、発行までに外部レビュー機関が確認することが必要。ただし、外部レビュー等において準拠するものは、サステナビリティ・リンク・ボンド原則、ASEAN Sustainability-Link Bond Standard、EU Sustainability-Link Bond Standard、サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン等のいずれでもよい。
補助金の申請者	サステナビリティ・リンク・ローン、サステナビリティ・リンク・ボンドの外部レビュー事業やコンサルティングなどを行うものとして、グリーンファイナンスサポーターズの登録を受けた者
対象費用	サステナビリティ・リンク・ローン、サステナビリティ・リンク・ボンドとして発行するに当たり、通常の資金調達に比べ追加的に発生すると認められる費用(例)発行前後の外部レビュー費用・フレームワークのコンサルティングに要する費用

部門別・商品別詳細

補助金制度名称	二酸化炭素排出削減対策事業費等補助金 ＜グリーンファイナンス拡大に向けた市場基盤整備 支援事業（脱炭素関連部門）＞ ※エネルギー対策特別会計	地域環境保全対策費補助金 ＜グリーンファイナンス拡大に向けた市場基盤整備 支援事業（環境保全対策関連部門）＞ ※一般会計
	国内の脱炭素化分野 (再生可能エネルギー、省エネルギー、グリーンビルディング等)	国内の左記以外の環境分野 (気候変動適応、資源循環分野、生物多様性・自然資本分野等)
対象となる金融商品	①グリーンボンド、②グリーンローン、③サステナビリティボンド ④サステナビリティ・リンク・ボンド (SLB)、⑤サステナビリティ・リンク・ローン (SLL) <small>※「グリーン・トランジション・ファイナンス」に関する詳細は、トランジションファイナンスとして掲載されている。</small>	
補助率	外部レビュー費用(グリーンボンド、グリーンローン、サステナビリティボンド)・・・40% 外部レビュー費用(SLB・SLL)・・・70% コンサルティング費用・・・50%	
予算総額	2.2億円	2,250万円
一件当たりの補助上限金額	2,000万円 ※1つの資金調達支援計画単位	450万円 ※1つの資金調達支援計画単位
＜要件＞ グリーンボンド グリーンローン サステナビリティボンド	✓ 調達資金の100% (サステナビリティボンドの場合は50%以上) がグリーンプロジェクト※ ¹ に充当かつ ✓ 調達資金の金額又は件数の50%以上が国内の脱炭素化事業に充当 (グリーンボンド・サステナビリティボンドの場合) フレームワークを公表済みであること。補助金申請時に未公表の場合は、発行までに公表すること。	
＜要件＞ SLB・SLL	国内のエネルギー起源CO2の排出削減(国内の脱炭素化)に資するKPIが一つ以上含まれていること。 国内の脱炭素化以外の環境改善(気候変動適応、資源循環分野、生物多様性・自然資本分野等)に資するKPIが一つ以上含まれていること。 KPIの選定、SPTの設定について、SLB及びSLLガイドラインとの適合の観点から、一定の要件を満たすこと。	

グリーンファイナンスポータル

ESG金融を取り巻く様々な政策情報を、広く発信しているサイト <https://greenfinanceportal.env.go.jp/>

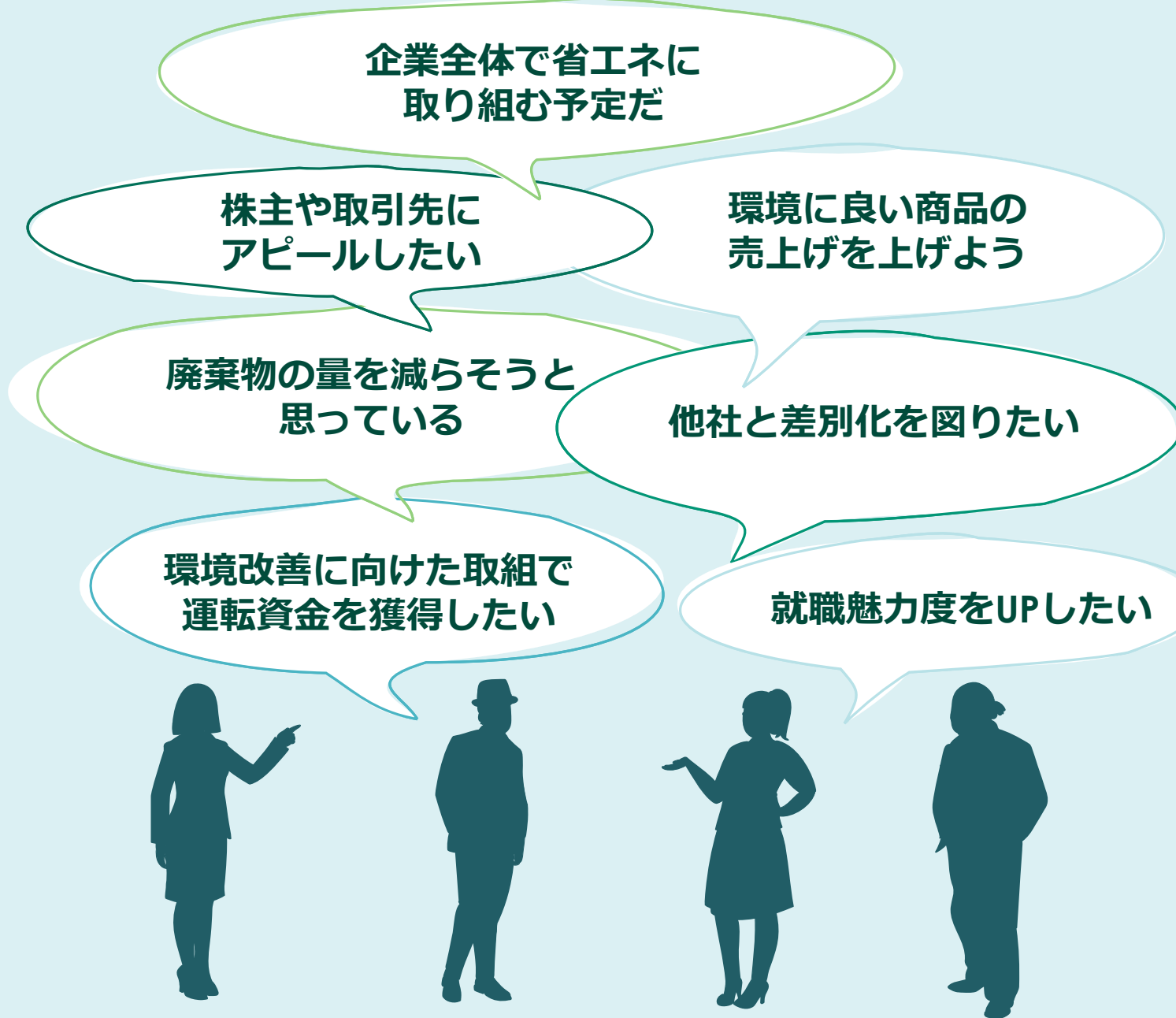


✓ グリーンファイナンス拡大に向けた市場基盤整備支援事業
(脱炭素関連部門) (環境保全対策関連部門)

サステナビリティ・リンク・ボンド
サステナビリティ・リンク・ローン

で資金調達しませんか？

サステナビリティ・リンク・ローン、
サステナビリティ・リンク・ボンドによる資金調達の際に、
必要な費用※を補助します。



※補助金対象は、通常の資金調達に比べて追加的に発生する費用 (例) 外部レビュー費用

補助金ご応募先：一般社団法人環境パートナーシップ会議
 HP: https://epc.or.jp/foundation_dept メール: gf_jimukyoku@epc.or.jp
 グリーンボンド・ローン一般について: グリーンファイナンスポータル
 HP: <https://greenfinanceportal.env.go.jp/> メール: greenfinanceportal@iges.or.jp

サステナビリティ・リンク・ボンド サステナビリティ・リンク・ローンのメリット

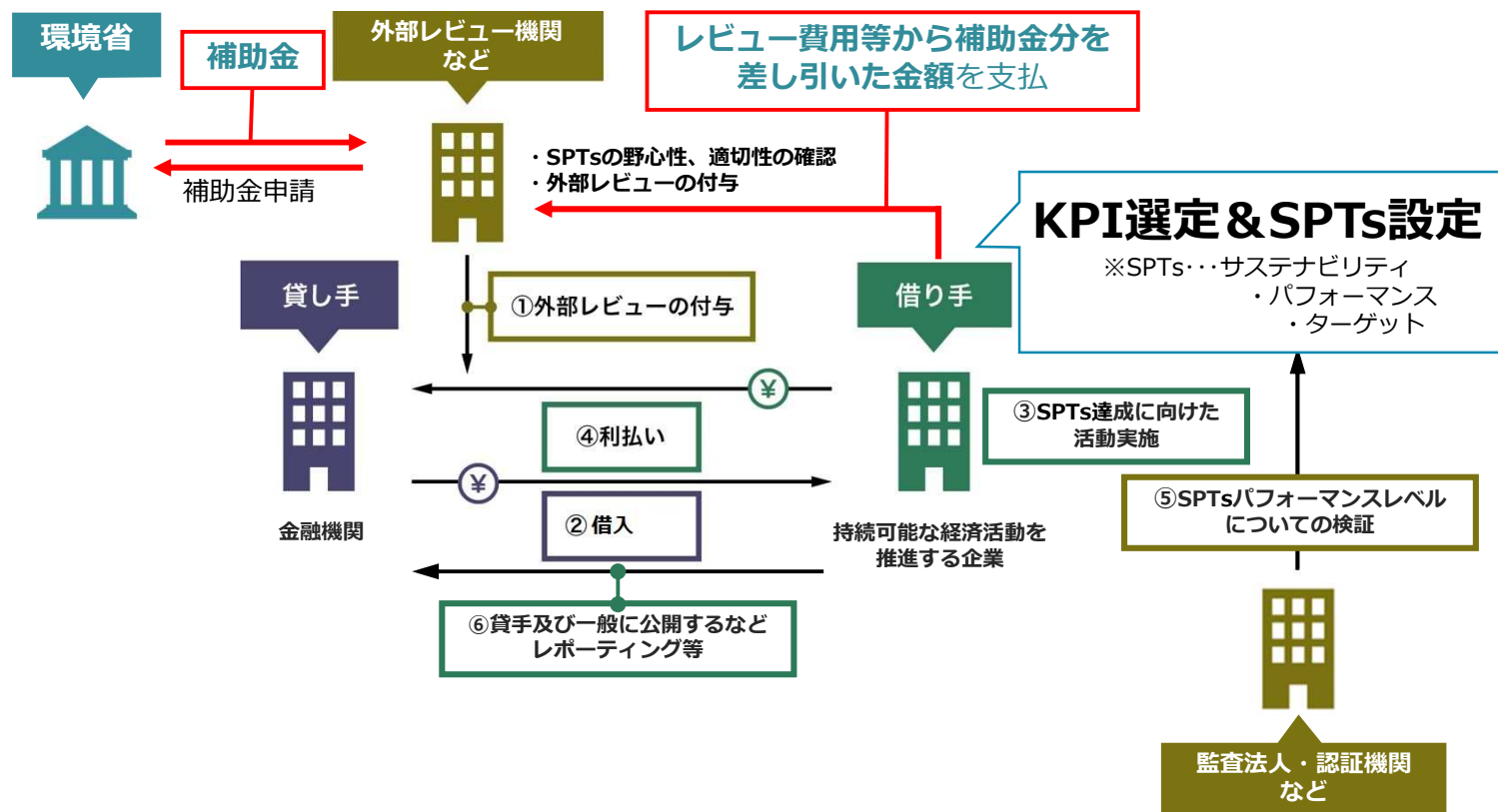
- 👍 新たな貸し手や投資家層の獲得&対話
- 👍 SPTs達成状況に応じて金利変動等の借入条件等におけるインセンティブ
- 👍 持続可能な経済活動アピール&社会的な支持の獲得
- 👍 サステナビリティ経営の高度化

サステナビリティ・リンク・ボンド サステナビリティ・リンク・ローンって何？

🌿 **借り手のサステナビリティ経営の高度化を目的**とし、企業や自治体等の資金調達者があらかじめ設定した評価指標（KPI）*とサステナビリティ目標（SPTs）の達成状況に応じて、**利率や借入条件等特徴が変化する**資金調達方法。

*KPIは借り手の本業に関連があるものであり、慈善事業や普及啓発活動を含めないこと

（例）サステナビリティ・リンク・ローンのスキームイメージ



外部レビュー等に関する**実質負担額が軽減**されます

※補助の対象は、事前にグリーンファイナンスサポーターズの登録を受けた機関による外部レビューやコンサルティングにかかる費用となります。グリーンファイナンスサポーターズとは…https://greenfinanceportal.env.go.jp/bond/regist_system/about.html

KPIの例

- ・年間省エネ量
- ・製造・販売される製品に関するCO2排出削減量
- ・再生可能エネルギーによる発電量
- ・水消費の削減量
- ・認証された持続可能な原材料の調達量
- ・環境に配慮した包装を用いた製品の割合
- ・廃棄物処理におけるリサイクル率
- ・生態系保全、保護の改善
- ・認知されたESG認証の達成

KPIの選定

- 選定の3つの観点
1. ビジネスにとって重要なものであるか？
 2. 測定や定量化が可能か？
 3. ベンチマーク可能か？

SPTs設定ポイント

以下の観点の組み合わせによってベンチマークすべきである。

- A) 資金調達者自身の長期的パフォーマンス
- B) 同業他社等との比較
- C) 科学的根拠、国・地域・国際目標

SPTs設定

野心的なSPTsを設定

※詳しくは、[サステナビリティ・リンク・ボンド](#)、[サステナビリティ・リンク・ローンガイドライン](#)をご覧ください

Q

通常の借入との違いは何ですか？

A

通常の借入との主な違いは以下4点です。
①SPTsの達成状況に応じて利率や借入条件等が変化する点
②外部レビューの付与が推奨される点
③レポーティングが必須とされる点
④検証を受けることが必須とされる点

Q

グリーンローン・グリーンボンドとの違いは何ですか？

A

グリーンローン・グリーンボンドは資金用途特定型ですが、こちらは資金用途を特定したのではなく、運転資金等借り手が希望する資金用途でご利用いただけます。

Q

外部レビューとはどのようなものですか？

A

外部レビューとは、対象の借入（債券）が国際原則等で求められる事項を満たすか等を、借入前後（発行前後）に評価するものです。SPTsの野心性等の客観的評価として、資金の出し手（貸し手である銀行や投資家）から求められることが考えられます。
例）KPIやSPTsの適切性についての評価 等

Q

レポーティングとはどのようなものですか？

A

レポーティングとは、資金の出し手（貸し手である銀行や投資家等）へ、サステナビリティ・リンク・ローン等に関する事業の進捗状況や環境改善効果の情報提供を行うものです。

Q

検証とはどのようなものですか？

A

借入時（発行時）に設定した各KPIのSPTs達成状況について、独立した外部機関から検証を得る必要があります。借り手が外部機関による検証を受けた場合には、結果に係る文書等について、貸し手に報告するべきとされています。

